

「仙台・宮城」
 デステイネーション
 キャンペーン
 観光客入込概況調査
 結果発表

「笑顔咲くたび 伊達な旅」をキャッチフレーズに、4月1日～6月30日までの3か月間、県内の観光施設やイベント等においてたくさんの方の観光客をお迎えした「仙台・宮城DC」。

期間中は観光客の宿泊・入込概況調査を実施。本号ではその一部をご紹介します。

期間中の宿泊客数は、前年同期比は減少したものの、22年比は増加傾向に。

DC期間中の県内の宿泊客数は550,607人で、前年同期と比べ0.6%の減少となりました。(図1・3)これは、復興関連需要が、平成23年をピークにだだらかに減少してきている傾向から判断し、依然として復興関連需要が下支えしていることに加え、今DCによる観光宿泊者の上乗せ効果があったことが伺えます。

観光客入込数は、前年同期、23年比ともに大幅に増加。

観光客入込客数については(図2)24年度同期比で14%増加しました。これは、震災から2年以上が経過し、沿

岸部の受入体制が徐々に整ってきたことや被災地視察などの「復興ツーリズム」の需要が好調であること、加えて今DCの効果に着実に反映されたことが考えられます。

震災前の平成22年同期比では、△3%の水準まで回復してきており、圏域別に見ても県南エリアと県北エリアに関しては22年同期比の水準をそれぞれ3.2%、1.2%上回っています。他エリアでも着実に22年同期比の水準に近づいており、本DCが交流人口の拡大を通じた観光の再生や経済の底上げに大きな役割を果たしたことが伺えます。

なお、交通機関では、仙台市内の循環バス「るーぷる仙台」や松島の「観光遊覧船」の利用客が24年同期比で24.7%と大幅な増加をみせる結果となりました。

3か月の取組みを一過性のものにしないうため、今後も心のおもてなしを。

DC期間中、多くの観光客の方々が仙台・宮城を訪れてくださいました。県内では、引き続き「慶長遣欧使節出帆400年記念事業」などの大きなイベントが控えています。本DCで培った「おもてなしの力」を発揮し、今後もたくさんのお客様をお迎えしましょう。

慶長遣欧使節記念事業関連の今後のスケジュールは6ページからの特集をご覧ください。

図2 観光客入込数

(単位:千人)

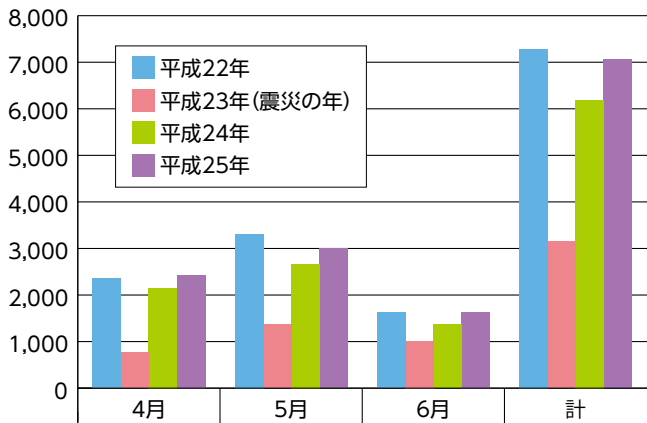


図1 宿泊観光客数

(単位:千人)

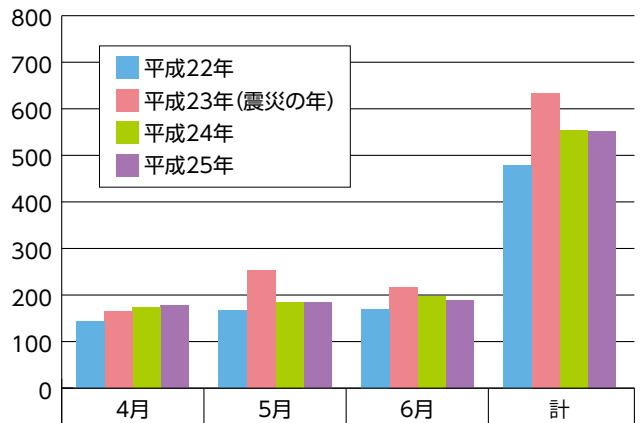


図3 観光客入込客数

(単位:人)

		入込客数				宿泊客数			
		4月	5月	6月	計	4月	5月	6月	計
宮城県全域	平成22年	2,349,624	3,312,614	1,622,242	7,284,480	143,387	166,078	169,689	479,154
	平成23年	761,578	1,367,943	1,015,203	3,144,724	164,110	252,694	216,789	633,593
	平成24年	2,150,982	2,667,077	1,370,977	6,189,036	172,958	183,260	197,525	553,743
	平成25年	2,431,212	2,999,057	1,633,395	7,063,664	176,979	185,291	188,337	550,607
仙台・松島	平成22年	746,982	2,217,875	897,680	3,862,537	94,827	105,881	108,215	308,923
	平成23年	196,699	604,216	386,878	1,187,793	116,765	163,147	143,967	423,879
	平成24年	615,133	1,826,550	680,593	3,122,276	107,517	114,060	123,446	345,023
	平成25年	687,328	2,021,570	881,543	3,590,441	109,371	116,019	120,138	345,528